

# 研究報告掲載報文要旨

## 発生段階別に冷蔵保存したアカモク幼胚の発芽率

瀬田智文

アカモク幼胚を発生段階別に約1ヶ月間冷蔵(5℃)保存した後、発芽した個体の割合を調べた。その結果、未分割幼胚、2細胞幼胚の発芽率はいずれも0%であった。また、3細胞幼胚、4細胞幼胚および4細胞より後の発生段階で仮根の伸長がみられない幼胚の発芽率は、それぞれ25%、17%および68%であった。一方、仮根の伸長がみられた幼胚の発芽率は100%であった。本研究により、仮根の伸長がみられた発生段階の幼胚を冷蔵することで、安定的な保存が可能になると考えられた。

## 京都府舞鶴市場におけるアカガレイの出荷実態と効率的な出荷方法の検討(短報)

野口俊輔, 熊木 豊

底曳網漁業における出荷作業の労力的負担を軽減するため、京都府舞鶴市場におけるアカガレイの銘柄別データから出荷実態を明らかにし、効率的な銘柄分けについて検討した。本種の主な銘柄は19種類であり、隣接した銘柄間のサイズ差は僅かであった。銘柄間の単価の差額が小さい場合は、それらを統合することで出荷作業を省力化できると考えられた。また、月別の体長と単価の関係から、大型魚の単価が低い4~5月は、活魚出荷量を増やしていくことで漁獲金額の増加につながると推測された。

## 京都府におけるクロアワビの殻長と単価の関係(短報)

篠原義昭, 道家章生, 西垣友和

クロアワビの資源管理を進めるための合意形成に重要となるVPR解析に必要な殻長と単価の関係を得るため、2015年7~8月に、京都府舞鶴地方卸売市場に出荷されたクロアワビを対象に調査を実施した。その結果、クロアワビの1個体当たりの単価(以下、単価)Piと殻長SLの関係式は $Pi=4.78 \times 10^{-4} \times SL^{3.10} \times [\ln(SL)-3.71]$ で表され、殻長が大きくなるにつれて単価は高くなった。京都府の漁業調整規則で定められた漁獲開始サイズである殻長100mmのクロアワビは1個あたり概ね700円、漁獲される最大サイズである170mmの個体では5,600円程度で取引されていることが明らかとなった。

## 標識放流調査におけるアカガレイ高齢魚の再捕事例(資料)

野口俊輔, 熊木 豊, 藤原邦浩

アカガレイ *Hippoglossoides dubius* の資源生態情報を得るために、2002年と2003年の4月に京都府沖合海域で本種の標識放流をおこなった。標識放流から3,306日後、3,692日後および4,563日後に再捕された体長35cm前後の雌3個体について、耳石観察による年齢査定をおこなった結果、いずれも21歳以上と推定された。うち1個体はこれまでに日本海で確認された最高齢を2歳上回る26歳魚であった。